

もてもて通信

2020 オータム号

「月が綺麗ですね」

6月20日（土）に行われた、宮田裕三の執事按手式を特集した通信をだしてから、もう3ヶ月が過ぎようとしています。すみません。ごぶさたしてしまいました・・・。

この間に、梅雨があり、暑すぎた夏があり、日本では第2波、徳島では第1波となった感染者数の増加があり、徳島での波は静まって、中秋の名月もありました。それでも、東京や京都に旅行で行かれた方が感染するなど、ポツポツ出ることもあるようです。秋が深まって、インフルエンザの流行も心配されます。どうぞ、お気をつけてお過ごし下さい。



夏の朝と夕の礼拝は、セミの鳴き声との競争でした。奏樂を始めると、ヤマボウシにとまっているのであろうセミが鳴き始めます！暑さが増すような感じがしました。

8月30日の夕の礼拝後、礼拝堂の窓から眉山を眺めていたら、月が昇りました。

この頃から夕の礼拝のお供は、セミから、眉山へ帰るカラスに代わっていきました。

10月1日、中秋の名月でした。でも、写真は翌日です。満月だった日の夜中に撮りました。

明治の文豪、夏目漱石は「I love you.」を日本語訳するのに、「月が綺麗ですね」としたそうです。

「愛」という概念を持っていなかった日本人にとって、「月の美しさ、綺麗さを分かち合いたい」という気持ちは「愛」なのだということなのかもしれません。

皆さんと、「月の美しさ」だけでなく、「神の福音」「イエスの愛」を分かち合いたいと、切に思っています。

皆さん！月が綺麗ですね！！



夏の出来事

7月26日から10日間ほど、牧師館お風呂の改修工事と、詰まりやすくなっていた排水管を止めて、配管しなおす工事がありました。同時に、キッチンシンクを付け替え、脱衣所に洗面台を置いていただきました。これで、台所で顔を洗わずに済むようになりました。感謝です！



工事中は、集会室を使わせていただき、ピロティに仮設シャワーを設置しました。子どもたちもずっと集会室にいたので、「おうちキャンプ」のようでした。



8月17日 地蔵院墓参



古本正夫司祭の命日に墓参をしました。
武市正大さん、西山一栄さんとお孫さん&ひ孫ちゃんとで、炎天下の元、数分でしたがお参りました。
この日、教会の庭でも百合の花が一輪咲きました。



9月21日 永野拓也さん司祭按手式

宮田とともに、3月に司祭按手を受けるはずだった永野執事（当時）の司祭按手式が、再度の延期を経て、この日、行われました。ライブ配信をするために、宮田と私は前日、礼拝後に出発して広島へ行きました。セッティングとテストを済ませ、夕食は長田司祭やご家族とご一緒させていただきました。徳島の話で盛り上がり、夜が更けました。
按手式の様子は神戸教区のYouTubeでご覧になれます。



<https://www.youtube.com/channel/UC1BwZBIK8ZS-Ynsn4UOKg>

日本聖公会 神戸教区



すだち狩り

バプテスト教会の信徒さんの農園で、すだち収穫のお手伝いをしました。

すだちの市場は9月末までなので、それまでにすべての実を取って出荷しなければならないのに、人手が足りないということでお手伝いしました。

ちょうど、「ぶどう園の労働者」のたとえが日課だった日曜日の後だったので、朝から働いた労働者の気持ちがわかる気がしました。とは言え、そこに不満を持つのではなく、神の愛が平等にあることを喜べる人でありたい、とも思いました。



宮田せんせえ クラージューシャツコレクション



聖職たちが着ていらっしゃるシャツを、クラージューシャツと言います。

黒はよく見ますが、宮田せんせえには似合わない?! (ハンドパワーを使う人みたい☺)

それにしても、いろいろな色のシャツがあるんですね。黄色や緑のシャツは、アメリカのメーカーからゲットしました。なんとなく、「リハビリの先生」とか、「〇〇介護士」みたいな感じもします。

見慣れているからか、ピンクが一番落ち着きます。

みやた せんせえ より

「物語を理解できない」

映画が好きで、ジャンルを問わず様々な映画を好んで見えています。ところが多くの映画のストーリーが良くわかりません。さらには映画を見終わった後に「で、主人公は誰？」と妻に聞くこともあります。また、演者の名前は知っていても、映画の中の名前はほとんどの場合わからないまま見終わります。ですから、物語中の名前でも映画の話がされると、一体誰のことなのかわかりません。同じように書籍の文章を読むことも、多くの場合は理解が困難です。ところが映画と同じように本が好きで、手に入れては積ん読状態に。

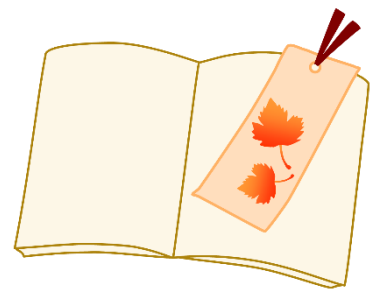
物心ついた時にはこの様な感覚でしたから、文章についての感想を求められると、まったく理解できずに、苦しい時間でしかありませんでした。読書感想文はまったく出来ませんでした。感想がないのです。

どのように映画を見ているのだろうか、どのように文章を読んでいるのだろうか。と考えてみますと、物語の中の、その瞬間の場面や出来事を一枚の写真のように捉えて、ドキュメンタリー写真のようにリアルな事柄として受け止めて、咀嚼しているような気がしています。日常生活においても同じような感じ方をしているようで、目に見えるものはその瞬間瞬間の画像として認知しているような気がしています。そこにある事実だけが存在して、その事実をそのまま受け入れる、そんな感覚です。

聖書を「読む」ということも同じように困難が伴います。そもそも登場人物がまったくわかりません。その関係性も理解できません。その上で、当時の修辞学によって書かれた作品が、さらに日本語に翻訳されている状態ですから、まったくもって理解不能な状態です。

ウィリアムス神学館での学びは、この聖書なるものを丁寧に教えていただけると考えていましたが、聖書の内容の一つ一つについて丁寧に学んだ記憶がありません。各科目の先生方が教えてくださっていたのは、聖書を読み解くための方法でした。旧約聖書の教授はリアリストでありながら信仰的理解をする方で、「この人はそもそもいなかったでしょう」「こんなことを言うことにはないです」「作り話です」と聖書をバッサバッサと切り捨てていきます。しかし、聖書として記されたことには意味があり、書き記した人たちがどのような思いや背景で書き記したのかを研究すると、伝えなかった本質が見えてきて、その中から信仰の本質を読み解くことが出来るということを知ることが出来ました。

聖書の読み方を知ると、興味深く聖書を読むようになりますが、いわゆる文学の深く広い世界が、どこまでもどこまでも留まることがない世界として立ちのびてきます。この深く広い世界が面白いと感じると、文学に興味を持ちどこまでも歩き続けることが出来るのでしょ。愛読書はなんですか？と問われると、見つかりませんでした。いつか「聖書」と応えられる日が来ることを望みたいと思っています。



佐古小学校は、今度の日曜日が運動会なので、夏に聞けなかった「阿波踊り」が聞こえています。元に戻っていくようにも感じますが、運動会のダンスも、子どもたちがあまり近づかないような振り付けにしているようです。いろんなことが、大きく変わったり、小さく変わったりしています。でも、常にその歩みにはイエスが共にいてくださることを信じて、前に進みましょう。